

## 第6回宝くじ活性化検討会議事概要

- 1 日時 平成23年12月2日（金）13時00分～15時00分
- 2 場所 総務省10階 総務省第1会議室
- 3 出席者 大森座長、鎌田委員、小西委員、木幡委員、須藤委員、高橋委員、武市委員、田中委員、玉田委員（代理出席）、野原委員、溝上委員、幸重委員
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ① 宝くじ活性化検討会報告書（素案）に対する意見交換
  - (3) 今後の進め方について
  - (4) 閉会
- 5 議事の経過
  - 宝くじ活性化検討会報告書（素案）について、意見交換が行われた。

（以下、質疑、意見交換の概要）

（1）宝くじ活性化検討会報告書（素案）について

- インターネット販売については、ICTの普及状況を踏まえれば、ユーザーの利便性向上のために既存宝くじを対象に導入するのももちろんのこと、さらにインターネット専用の新商品を導入すべきということを明確に記載してほしい。
- 目次に表れる部分については、できるだけ抽象的な表現を避け、具体的に記載することが望ましい。
- 「メールマガジン」という用語は、専門的な言い方をすると「ソーシャルメディア」の方が適当ではないか。
- 受け取りに来なかった当せん金（時効金）の行方はどうなっているのか。
  - 当せん金の時効期限は1年となっており、1年を超えると通常の収益金と同様に発売団体に入ることになっている。また、toto や他の公営競技でも同様に発売団体に入ることになっている。

- 時効金は社会貢献に使われているのか。
    - 通常の収益金と同様、発売団体に納付され、社会貢献に役立てられている。なお、インターネット販売が導入されれば、時効金は減少していくと見込まれる。
  
  - 自分の購入した宝くじの収益金の使途が不明なので、使途を分かりやすく示す努力が必要。
  
  - 収益金はいわゆるハコモノに充てられている印象があり、芸術や音楽といった目的にも使われていることを知らなかった。報告書に収益金の使途も具体的に盛り込んでみてはどうか。
  
  - これまで、コンビニエンスストア販売の拡大は当然のこととして、議論をしてきたにも関わらず、報告書案ではその点が曖昧になっている。「コンビニエンスストア販売を拡大すべし」という点を明確に打ち出したほうがいいのではないか。
  
  - 現状では、販路拡大と宣伝がオーバーラップしてきていることも考慮して、広告の担い手については、広告代理店に限定しない表現にしてみてもどうか。
- (2) サブタイトルについて
- サブタイトルについて議論を行った。
    - 宝くじに新たな展開を求めること、夢、社会貢献もキーワードにすることなどが多数意見であった。

(以上)